キャラクター名
纏射　紫雨(まとい　しぐれ)

プレイヤー名

シンドローム	ブラム＝ストーカー ブラム＝ストーカー	ワークス	UGN支部長D	カヴァー	UGN支部長
オプショナル		年齢	24	性別	女
覚醒	素体	衝動	闘争	初期侵食率	32 %
出自	犯罪者の子[父親or母親]	経験	敵性組織[FHエージェント]	邂逅	慕情[姫宮由里香]

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	2	0	0			2
感覚	4	0	0			4
精神	2	0	0			2
社会	0	1	0			1

HP	26
行動値	10
(非装備時)	10
戦闘移動	15
全力移動	30

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	1		ＲＣ			交渉	1	
回避			知覚			意志	1		調達	2	
運転：			芸術：			知識：			情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：FH	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品

ロイス

対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
FHセルリーダー"----"	P　好意	N　憎悪		
FHエージェント	P　同情	N　嫌悪		
姫宮由里香	P　慕情	N　不安		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P:　6	残り財産P：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：コスト分のHPで復活								
コンセントレイト(B=S)	2							
効果：C値-Lv								
滅びの遺伝子	3	6	オート	視界	単体	自動	ピュア	
効果：対象から1点でもダメージを受けた時、対象に[Lv*10]のダメージ、1シナリオ1回								
赤き弾	5	2	メジャー	武器	-	対決	-	
効果：<射撃>攻撃力+[Lv*2]、メインプロセス終了時にHP-3								
血の宴	1	3	メジャー	-	範囲(選)	対決	-	
効果：組み合わせた攻撃の対象の変更、1シナリオLv回								
夜魔の領域	1	20	オート	至近	自身	自動	120%	
効果：メインプロセス終了時発動、即座に未行動状態になるが、行動値が[0]になる、1R1回・1シナリオLv回								
始祖の血統	1	4	メジャー	-	-	-	100%	
効果：ダイス+[Lv*2]個、メインプロセス終了時にHP-3								
かぐわしき鮮血	1	-	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果：<GM知覚>血液の香りから個人や集団を特定可能								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

FHのセルの一つである"WOTHEE"で育てられた孤児。
セルのリーダーである"----"に実母の様に育てられるが、実は紫雨の両親を殺したのがこの"----"である。
紫雨本人はこの事実を知らないが、UGN上層部は何かを掴んでいるようだ。

纏射家は忌み嫌われる呪われし一族である。
纏家の人間は多くが傷つくことで自身の能力が増していく特性を持ち、中でも紫雨はその素質が極めて高いと言われていた。
そこに目を付けた"----"が両親を殺害。戦力の強化と己の野望の為に、紫雨を養子という形で迎え入れたのだ。

しかし、素養に反して紫雨はその力を発揮出来ずにいた。
勿論、同年代のオーヴァード達よりは優れていたが、それでも期待値の1/4程度の結果しか出せないお荷物であった。

纏射家の落ちこぼれ、と揶揄されていた紫雨だったが、ある日"====="という作戦に参加させてもらえることになる。
リーダーからの推薦ということもあり張り切る紫雨であったが、周囲はそれに対して様々に思う所があったようだ。

結果として、作戦遂行中に仲間とリーダーに裏切られ、紫雨は捨て駒として使われることになる。
その後、事件現場でボロボロになって倒れていた所をUGNが発見。
治療後事情を聞いたUGN上層部の判断により、"纏射唯一の後継者"としてUGNで保護されることになる。

霧谷の指示もあり、紫雨は姫宮の監視・保護下に置かれることとなる。
研究対象として、また、今後の戦力として大いに期待された紫雨だったが、相変わらずその素養に反した結果しか生み出せず苦悩していた。
しかし姫宮はそんな紫雨を見捨てず、また支部の仲間にも恵まれたのか、紫雨は多くの人々に支えられ続けて生きることとなった。